

Aグループ

中山恵美（第一小）	久住昭子（日末小）
野澤美幸（犬丸小）	竹田則子（串 小）
森田寧子（稚松小）	高見恵子（中海小）
谷口木綿子（西尾小）	泊 敦子（東陵小）

家庭における「母性」と「父性」

子ども達の教育に日々深く関わっているのは

学校 家庭 行政

と大きく3つに分けられ、それぞれにやるべき役割があると思われます。

私たち親が『家庭』でやるべき教育とは

家庭とは、人間の社会の最小単位である個人の次に小さい単位です。

このため人間らしく生活できるための、最も基本的な段階の教育として、乳幼児のころより段階を追って教育していくところです。

ですから成長するに従って、個人が家庭内で受ける影響は計り知れません。

食事やマナー、あるいは立ち居振る舞いや物の考え方に至るまで多岐にわたります。

生活のさまざまな面で学ぶ事になるため、日常生活そのものが、家庭教育であるともいえま
子どもが家で身につけたことは、生涯、ずっと生き続けます。

子ども達のいちばんの願いは……

「あなたの家庭にもっとも望むことはありますか」

と子ども達に聞いたところ、どの年代の子どもでもいちばん多かった答えは

「家族のみんなが楽しく過ごす」だそうです。

必要なモノさえ与えていれば子どもは育つ、ではなく家族が意識的に

協力し合わなければ、楽しい家庭はなかなか得られません。

子どもにとって心安らぐ居場所になっているかどうか、家庭を見つめ直してみましょう。

話せばわかるとは限らないが、話さなければもっとわからない

夫婦の間、親子の間での会話を増やしていくことが、家庭づくりのすべての基礎になると思います。
夫婦でも親子でも何でも話せる仲であるのが理想です。

日々の会話を増やすには、できるだけ一緒に食事をし、お互いにその日の出来事を話すとか、
スポーツをしたり、また地域の活動に参加したりする、工夫をすることが大切です。

また、高学年になると男女とも身体が急速に成長しはじめます。不安やとまどいがないよう、身体の変
化について話してあげることも大切です。

親の生き方が、子どもへの最高の教育になる

いままでは勤勉で従順な人が社会から求められましたが、これからは問題を解決するために
自分で考え、工夫し、行動する、勇気ある社会人が求められているそうです。

自分の利益だけでなく、家庭や地域、そして社会全体に目を配り積極的にかかわれる人に
育てるため、まず親自身がその大切さを理解し、努力・挑戦することが大切だと思います。

家庭教育での親の役割

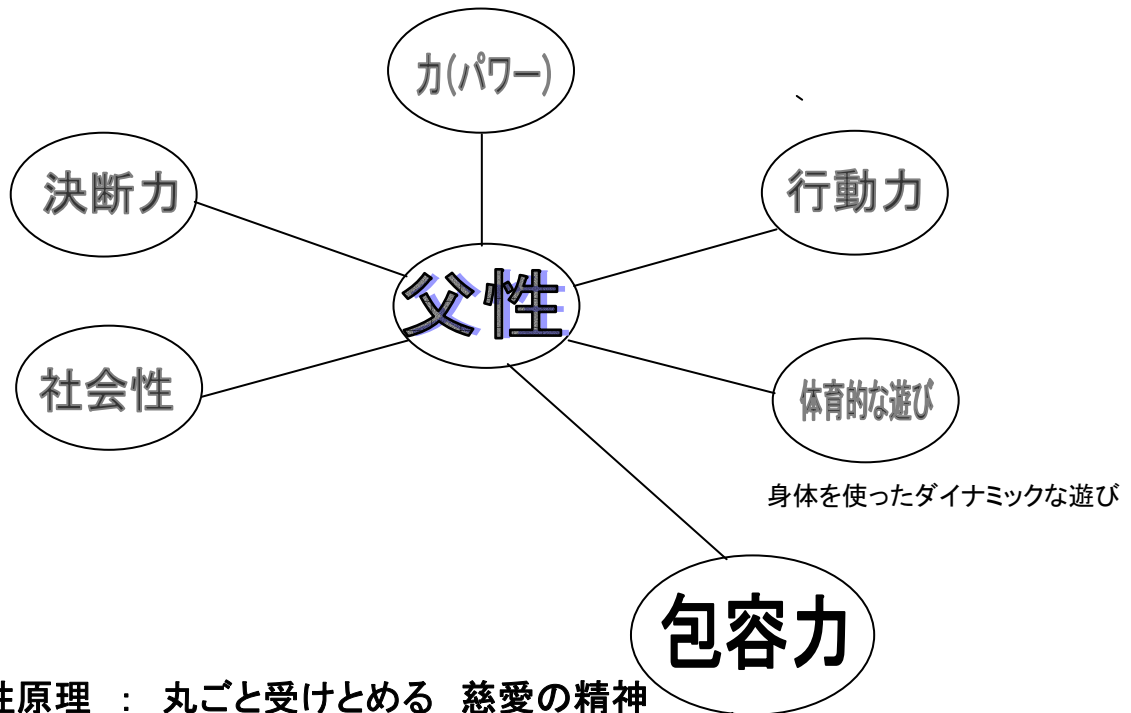
実際に家庭教育をおこなっていくときは、父親(父性)・母親(母性)が分担しておこないます。
どちらかに偏ってしまうと、子どもには居心地の悪い家庭になってしまうでしょう。

しかし、ひとり親家庭や共働き家庭では、そんなわけにはいきません。
最近では父親役割・母親役割を明確にせず、男女共通に親役割をになうことから
両性のバランスが大切になってきています。

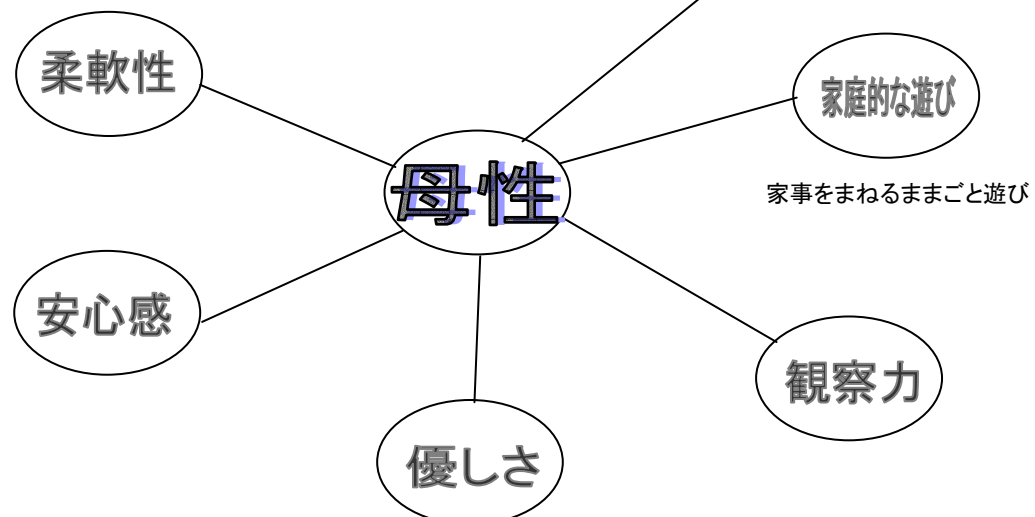
父性・母性とはどんなもの

私たちがイメージするそれぞれの特徴をあらわしてみました。
両方に共通するものとして、包容力を挙げています。

父性原理： 価値規範 ルール意識・ルール感覚の提示



母性原理： 丸ごと受けとめる 慈愛の精神

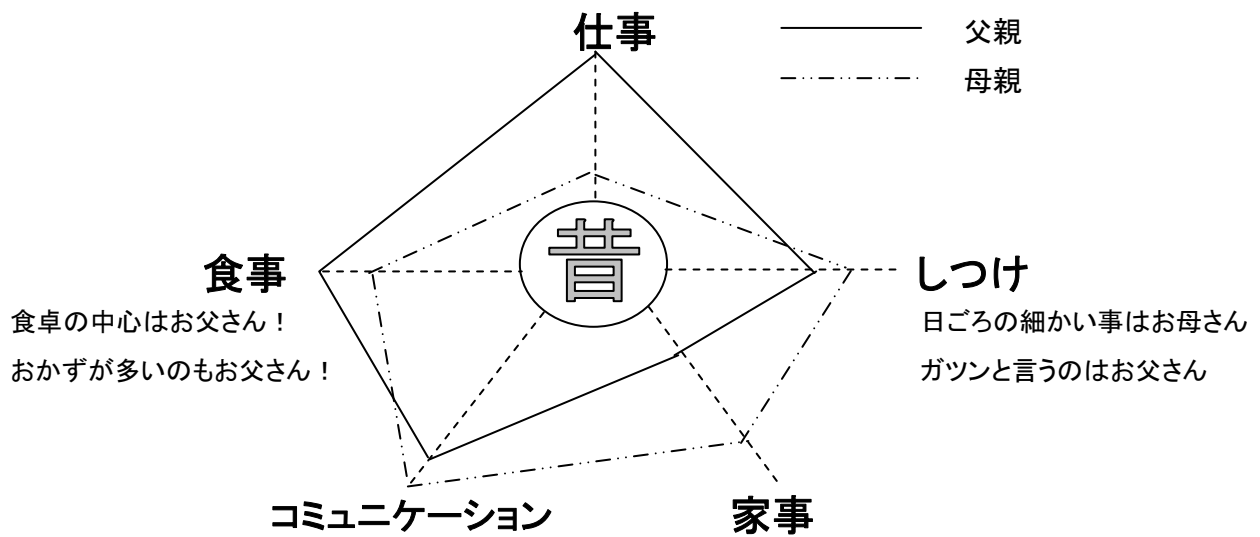


日常生活の中の『父性』『母性』のバランス

ふだんの生活の中で、実際に親が家庭で行うべきものはたくさんあります。
その中でも大切だと思う5つの点について、**父性・母性のバランス**を考えてみたいと思います。
その際、私達世代(20代後半～40代)と私達の親世代(50代～60代)では子育ての環境が変わってきているので、私達世代を **今**、私達の親世代を **昔** として分けて表してみました。

私達の親世代(50代～60代)

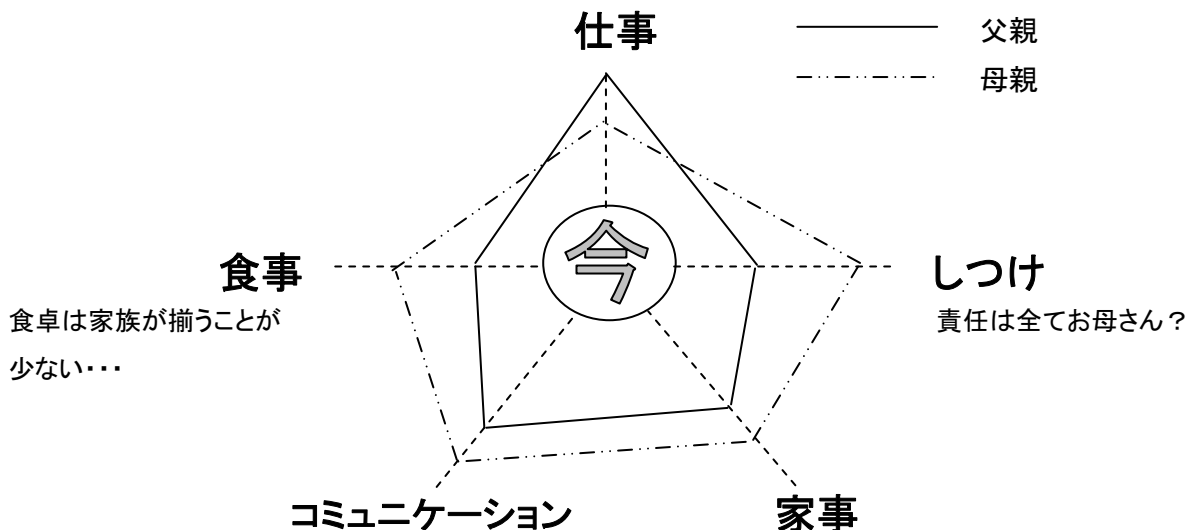
昔の父親・母親の五角形は場所が示すとおり、役割がはっきりしていて、
2つの五角形を合わせると全体がバランスのよい形になり、それぞれの大きさも似ています。
つまり、それぞれの役割が偏らず、存在感も等しかったようにみえます。



私達世代(20代後半～40代)

今は、それぞれの役割分担ははっきりしていませんが、お互いに分担・協力しているので
五角形の形は同じようになっています。

しかし、父親の五角形が母親に比べると小さく、家庭の中の存在感が小さくなったようです。
ですから母親の影響を多く受けているかも知れません。



親の笑顔が 子どもの笑顔をつくる

子育ては大事ですが、一日中わき目もふらずに集中しては疲れてしまいます。
親のイライラは、子どもにも伝わっていくものです。
大変な子育てだからこそ、自分も時間をつくり、心を健康に保つことが大切です。
親が幸せで笑顔でいる家庭こそ、子どもも幸せを感じられます。

どのこも 子どもの星

どのこも 子どもの星

みんな それぞれが それぞれの ひかりをいだいて

まばたきしている

ぼくの 光を見てくださいと まばたきしている

わたしの 光も見てくださいと まばたきしている

光を見てやろう

まばたきに 応えてやろう

光を見てももらえないと 子どもの星は 光を消す

まばたきをやめる

まばたきをやめてしまおうと しはじめている星はないか

光を消してしまおうと している星はないか

光を 見てやろう

まばたきに 応えてやろう

そして

やんちゃ者からは やんちゃ者の 光

おとなしい子からは おとなしい子の 光

気のはやい子からは 気のはやい子の 光

ゆっくりやさんからは ゆっくりやさんの 光

男の子からは 男の子の 光

女の子からは 女の子の 光

天いっぱいこ 子どもの星を かがやかせよう



『東井 義雄 詩集』より

最後に……

私たち親が、家庭でなにげなく生活していることそれ自体が、子ども達にいろいろと影響していることが今回の研修を通して、あらためて実感させられました。

がんばって帰ってきた子ども達を笑顔で迎えて(もちろんご主人も！)、家族みんなが楽しく過ごせるそんな家庭であり続けたいな…と思います。

そしてこの詩のように、わが子の光をみつめていてあげたいと思います。